

特別企画講座

西山先生と行く「甲賀の古社と古刹」

講師 西山 克 京都教育大学名誉教授

伊賀市と亀山市に隣接する甲賀市は古代から都との関係が深く、西山先生から甲賀の神社仏閣は見るべきものが多いから行ってみましょうとお声をいただきました。春の講座は、コロナウイルス感染防止のため中止しましたが、再度企画をとご要望が多かったことから、内容を精査し再考させていただいて実施いたします。ぜひご参加ください。メインの油日神社は南鈴鹿山脈の霊峰油日岳の麓に鎮座し、創建は聖徳太子の頃とも天武天皇の頃ともいわれます。油日岳の山頂に油の火のような光と共に神が降臨したことから油日の名がついたとも伝えられています。国指定の重要文化財である本殿、拝殿、楼門が一直線に並び、楼門の左右からやはり国の重文の回廊が伸びる堂々たる建築様式です。映画テレビのロケ地にもなり、「わろてんか」「信長協奏曲」「居眠り磐音」など、ご覧の方も多いでしょう。近くにある櫛野寺は伝教大師最澄が彫ったと伝わる十一面観音を安置したのが始まりとされています。残念ながら私仏で拝観はできませんが、甲賀三大仏といわれる薬師如来坐像をはじめ、18体にも及ぶ重文の平安時代の仏さまが宝物館に収められ、それは見ごたえがあります。午後からは京都の八坂神社西門を模した楼門を持つ大鳥神社へ。拝殿をはじめ7棟の建物が登録有形文化財です。祭神の素戔鳴尊坐像は国の指定文化財となっています。最後は甲賀三大仏のひとつ十楽寺の阿弥陀如来坐像を拝観します。十一面千手観音、救世観音、お釈迦様の生母摩耶夫人立像などの仏像も見どころです。

行程 油日神社—櫛野寺—大鳥神社—十楽寺

日時 9月25日(金) 8:00~17:00 参加費 会員 10,500円 ビジター 11,500円(バス代・食事代・拝観料・保険料含む)
集合場所 7:55までに五十鈴川駅集合 定員 15名限定

10月29日(木) 十三夜に集う

講師 千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

十三夜の月に浸る

時間 18:00~20:30

昨年の秋に予定していた、台風のために中止になった講座、もう一度のお声を受けて企画いたしました。旧暦9月13日の夜の月は、「十三夜」。旧暦8月の十五夜に次いで美しいとされ、「後の月」とも呼ばれ、2度目の月見を楽しみました。芋名月として里芋を供える「十五夜」に対して、「十三夜」は豆名月、栗名月として、月見の行事を行います。月見は収穫を祝う行事であるのです。令和元年の秋に、新天皇陛下の即位礼と大嘗祭が行われました。とくに大嘗祭は、新天皇が神々に神饌を供えるという食にちなんだ儀式でもあります。収穫のお祭りとも、また十三夜を詠んだ詩歌、小説などをとりあげ、日本独自の風習「十三夜」と日本人についてお話しします。おはらい町通りにある郷土料理店「すし久」で月見膳をいただいたあと、五十鈴川河畔をそぞろ歩き、「杉風荘」でお抹茶とお月見にちなんだお菓子をお楽しみいただきながら、千種先生のお話に入り、お月見を楽しみましょう。

参加費 会員 5,800円 ビジター 6,300円(食事・抹茶・菓子付き) 場所 杉風荘 定員 20名限定
集合場所 おはらい町通り食事処「すし久」(18:00に直接「すし久」にお集まりください)

中部エナジー探検隊特別企画 「人の力が導く未来」 ~会員様限定企画~

講師 岩本 敏 フリーランスエディター・エッセイスト・元サライ編集長 主催 中部エナジー探検隊 協賛 フォーラムエネルギーを考える・(公財)伊勢文化会議所五十鈴塾

日本のエネルギーの自給率はわずか8%です。ところが電力に限ってですが個人が一人当たり消費する量はカナダ、アメリカ、韓国について4番目です。いかに私たちの生活が電力に依存しているかわかります。かなりもろい地盤の上で私たちの暮らしが成り立っているということです。ではどうすればいいでしょう。今回は「人の力が導く未来」をテーマに講演会を開くこととなりました。「中部エナジー探検隊」という団体の主催ですが、エネルギーについてみんなで考え話し合っていこうという組織です。エネルギーというと難しく思いますが、実は身近な問題で私たち一人一人の暮らしや考え方で未来を変えることもできるのです。今からほんの150年前までは、一般的な移動手段は自分の足のみでした(馬とか駕籠とか船はありました)この状態の中で、北海道の名付け親といわれる松浦武四郎も日本地図を作った伊能忠敬もほとんど歩いて日本全国を踏破しました。この事実に感激した岩本さんは自ら提唱していた農業ライフを実践することにより、人の力の大切さをアピールする取り組みを始められています。コロナ騒動でこれまでの社会の在り方を見直さざるを得なくなり、家族や友達の絆、暮らし方の工夫が貴重で面白いと気づき始めた日本、身の丈にあった暮らしが開く未来をお話いただきます。ぜひご参加ください。(この企画の参加は会員様限定とさせていただきます)

第一部 講演(お菓子・お茶付き) 第二部 伊勢神宮内宮散策(案内人がつきます)
日時 11月7日(土) 13:00~16:15 参加費 会員限定 500円(お菓子・お茶付き)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

旬を食す~斎王さんの食事~

講師 村林 新吾 相可高校食物調理科専門調理師教諭

和食について学びながら相可高校生による食を体験する恒例の講座、今回は格調高く斎王さんの食事に挑戦です。斎王とは天皇の御杖代(名代)として天照大御神に仕えるために、はるばる都から赴かれた皇女または女王です。7世紀後半、天武天皇の皇女であった大来皇女から始まり660年続き、60人以上の姫君たちが今の明和町に住まわれました。斎王の主たる任務は三節祭という伊勢神宮の最も重要なお祭りに伊勢市の神宮におもむき、御奉仕をされることです。平素は斎宮寮とよばれる大きな建物の中で和歌を詠んだり、楽器を奏したりして優雅に暮らしていたようですが、お食事は一体何を召し上っていたのでしょうか？ 少なくとも伊勢は海が目の前です。榊田川はそばを流れているし、米や野菜、果物も豊富、とって材料に恵まれたところで相当グルメな食生活だったのではないかと推察できます。なんにもない都より数段勝っていたのではないのでしょうか？ 次から次へと想像が広がる斎王さんの食事についてのお話と試食の講座です。

日時 11月15日(日) 11:00~13:30 参加費 会員 3,500円 ビジター 4,000円(食事代含む)
場所 五十鈴塾左王舎 定員 20名

五十鈴塾塾長

神崎宣武 特別講座

神崎 宣武 民俗学者

旅する神々⑦ ~吉備津彦命と温羅~

時代は3世紀末。大和・出雲と拮抗するかのよう国造りの進んだ吉備に海の彼方の遠国から温羅が飛来しました。乱暴狼藉をつくり、地主神たちの手に負えないところに四道将軍の吉備津彦命(第7代孝靈天皇の皇子)が3人の家来とともにやってきて戦い退治します。そしてその首を吉備津彦神社の釜の下に封じたと伝わります。この伝説が吉備津彦神社創建の基となり、鳴釜神事(祈祷)を伝えることとなりました。またこの伝説がおとぎ話の桃太郎を生むモチーフとなったといえます。なぜ遠国から吉備へ、なぜ大和から吉備へ、今回は伝説の中での虚実を解いてみます。

日時 11月16日(月) 18:30~20:00 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

『「日本」に出会う』シリーズ 第16回

日本各地から地方色が失われています。そして、季節の風情や味覚までも。つまり、日本文化を構成する多様性が失われつつあるのです。何をもって「日本らしさ」とかというの議論がわかるところですが、五十鈴塾が注目する「日本らしさ」に神崎塾長と出会いに行ってみたくと思います。回数を重ねると、次代に繋げなければならぬ何かが見えてくることを期待して、歩いて・見て・話しあってみましょう。

「西国三十三所巡り」その1~壺阪寺・岡寺~

西国三十三所は近畿2府4県と岐阜県に点在する33ヶ所の観音信仰の霊場です。これらの札所を巡礼参拝すると現世のあらゆる罪業が消滅し、極楽往生できるとされ、日本で最も歴史のある巡礼行です。始まりは養老七年(718年)と伝えてありますが、衰退したり盛り返したりと変遷を経て江戸時代に一般に広まりました。伊勢神宮にお参りしたのちに熊野に行き、高野山などを参拝しつつ、三十三番目の岐阜の谷汲山に向かい、帰りは信濃の善光寺におまいりするというコースが通例だったそうです。

今回はまず奈良の壺阪寺と岡寺に行きます。壺阪寺は正式には南法華寺、山号は壺阪山といえます。場所は高市郡高取町で、六番目の札所、御本尊は十一面千手観音菩薩です。眼病に霊験があるといわれています。岡寺は東光山真珠院龍蓋寺が正式名ですが、明日香村の東にある岡山の中腹に位置するので岡寺と呼ばれてきました。七番目の札所で、御本尊は日本最大の塑像として有名な如意輪観世音菩薩です。龍蓋寺という名は、飛鳥の地を荒らしていた悪龍を時の僧正が法力で池に封じ込めた大きな石で閉じ込めた伝説からきているそうです。そのために、この寺は厄除けの寺として有名なのだそうです。コロナの厄除けのためにもお参りするのいいかもしれません。岡寺にお参りした後は飛鳥をしばし散策いたしましょう。昼食は、国営飛鳥歴史公園内唯一の宿泊施設祝戸荘で古代食の万葉あすか葉盛御膳をいただきます。藤原京から出てきた木簡を元に、古代宮廷人が食べていた料理を現代風にアレンジしており、古代のチーズ「蘇」やほんのり赤い「赤米」などが朴の葉に盛り付けられています。あの額田王も食べたかもしれない古代食をぜひ味わってみましょう。(歩きやすい服装で飲み物、おやつなどお持ちください)

日時 11月17日(火) 8:00~18:00 参加費 会員 17,000円 ビジター 18,000円(バス代・昼食代・拝観料・保険料含む)
集合場所 7:55までに五十鈴川駅集合 定員 15名限定(※最少催行人数15名)